

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームのイベントに、地域や保育園の方をご招待し、相互交流を行なっている。入居者の方と散歩やゴミ出しなどを積極的に行い、地域の方々となじみの関係になるよう日頃から心がけている。	○	イベント等に参加される方が決まっているので、地域の多くの方にも参加して頂けるよう、積極的に係わっていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員だけでなく、ホーム内の誰でもわかるように玄関・事務所などに掲示しており、それぞれが理念を念頭におき、日々の業務やミーティングで確認しながら、実践に向けて日々の介護に取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や地域の方にイベントや運営推進会議に出席していただき、交流をもっていただいている。事業所が地域との関係を高められるよう、買い物や散髪などに地域のお店を利用し、地域行事にも積極的に取り組み、利用者が地域の中で暮らし続ける理念を理解してもらうよう努めている。	○	ご家族や地域の多くの方々に理解して頂けるよう、取り組んで行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	設立以来の付き合いがあり、結びつきは強い。近隣のスーパーや理美容・クリーニング店を利用したり、ホーム便りを配ったり、イベントに積極的に声をかけている。ご近所の方が花を植に來てくださったり、出来た野菜を届けてくださるなど、日常的なつきあいが出来ている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでの行事に、他G.H.や保育園・近隣の方を招待したり、中学生の職場体験学習も受入れている。市民センター主催のウォーキング会や町内の文化祭にも参加し、地域の人々と積極的に交流し、地域との関係を高めるよう努めている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム便りの‘地域版’を発行し、認知症について理解をしていただけるよう取り組んでいる。	○	職員は、認知症高齢者に対する介護の技術や知識を地域の高齢者の方やそのご家族への支援として活かせることができないかを話し合い、その実現に向けて取り組みたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や理解も高まってきており、自己評価で気づいた改善点や外部評価で指摘された内容については、次年度までの計画に盛り込む等、具体的な取り組みをしている。	○	自己評価・外部評価で指摘された内容が全て改善できたとは言えない。これからも、継続して、介護現場や会議等で検討して具体的な改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、ホームの活動や取り組みを理解していただくために、報告を行なっている。また、ご家族の思いやホームの抱える悩み等について意見交換をしたりアドバイスをいただき、サービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との連携は、運営推進会議が主体となっているが、それ以外にも地域包括支援センターに相談に伺ったり、入居に関する情報交換などの連携をはかっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修会に参加し、権利擁護や成年後見について学んでおり、パンフレットを備え付けたり、必要に応じて、ご家族に説明を行なっている。	○	権利擁護や成年後見について、全職員が詳しい説明ができるほど理解しているとは言えないので、研修を重ね、必要な方に支援できるように取り組みたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で虐待について、学んだり話し合っている。身体拘束のみならず、精神的な虐待等もないよう、注意を払い、虐待防止の徹底に努めている。	○	高齢者虐待防止法について詳しく学ぶ機会が少ないので、外部の研修会にも参加し、知識を深めていく。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結及び解約については、利用者と家族からの聞き取りと説明を丁寧に行い、相互に不安や疑問のないように理解・納得をした上で契約書や同意書を交わしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は思いをうまく表現できないことがあるので、日頃の様子をよく観察し、不満や苦情等を見出すよう努めている。運営推進会議では、利用者や家族に率直な意見を言っていただけ環境を築いている。		これからも、利用者のご家族に、何ら遠慮することなく意見や不満・苦情を言っていただけ環境・関係作りに努めたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月毎の暮らしぶりや健康状態を手紙で報告し、体調変化時には随時電話連絡している。また、ホーム便りを季節刊として発行し、行事や利用者の写真を載せ、報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から遠慮なく様々な意見や不満・苦情を言っていただけのような雰囲気作りを心がけており、運営推進会議の参加や苦情箱の設置、来訪時に尋ねるなどしている。実際に苦情があった場合には原因を追究し、速やかに改善に取り組んでいる。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の受け入れ・利用継続の可否、職員の新規採用等、運営者や管理者は運営に関するほとんどの事案について職員の意見や提案を聞き、運営の活性化に努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に応じて、必要な時間帯には職員を確保できるよう、運営者・管理者・職員間で協力体制が出来ている。また、柔軟な対応出来るよう、いつでも連絡が取れる体制を整えている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が長く勤められるよう、悩みを相談しやすい関係作りに努め、勤務希望にも出来るだけ応じ、家庭と両立できるような体制をとっている。また、新規採用者への指導マニュアルを活用することで、皆が同じケアを行い、利用者へのダメージを抑えている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別・年齢・宗教などを理由にして採用対象から外すことはない。また、園芸・折り紙など職員の特技・能力を發揮して勤務でき、研修や資格取得のサポートを行なう体制ができている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は外部の研修を受け、会議や日々の介護現場の中で利用者の人権尊重についての話をし、職員の人権に対する意識が高まるよう取り組んでいる。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員の指導マニュアルを活用することで、皆が同じケアを行うことを目指している。職員毎の研修計画はないが、日々の業務の中で、管理者を中心とした職員相互で助言・示唆できるよう、職員の質の向上を目指している。	○	外部の研修に参加する機会が少ないので、出来るだけ受講するように推奨し、勤務体制を整える。また、事業所全体の研修計画で、個々の職員に応じた研修の機会を作り、向上を目指したい。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入し、管理者や職員が研修会に参加している。また、他事業所と交流し、情報交換や相談できる関係を築き、サービスの向上に努めている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	神経を使う仕事であるため、休憩時にはしっかりリフレッシュ出来るように休憩室にソファベッドを設置している。また、職員同士がいつでも自由に話せる関係作りに努め、ストレスをためないような環境づくりに取り組んでいる。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の勤務状況・態度を把握し、意欲や努力を認め、評価することで、向上心を持って働けるように努めている。介護方針の決定やイベントについては、介護職員の主導で行なっている。		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用相談があった時には、本人と自宅・施設等で担当者を介した面会を行っている。また、体験利用をしていただき、不安や要望を聞き取りながら、信頼関係を築くことが出来るように努めている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用の相談に来られた時から、家族の困っていることや不安なことを親身になって伺い、少しでも気持ちの負担を軽減できるように対応しており、利用開始前から良い関係を築く努力をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている	本人・家族の相談には速やかに対応している が、ご本人にとってベストな介護サービスを選択 できるよう、他の施設サービスも含め説明するよ う努めている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、 サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談ながら 工夫している	入居前より自宅や施設訪問で、顔見知りになる ように努めている。また、体験利用をしていただ くことで、職員・他の利用者・ホームの雰囲気 に馴染んでいただけるようご本人に合わせた柔 軟な対応をし、本人・ご家族が安心し納得して入 居できるよう工夫している。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあ う関係を築いている	散歩に行ったり、料理などを手伝ってもらったり する中で、お互いを思いやる関係ができてい る。利用者の気持ちを理解し、尊敬し支えあ う関係を築くように努めている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽 を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況を随時連絡して、家族が中心と なって利用者を支えていくことの重要性を伝えて いる。	○	忙しいことを理由に、対応をホームに任されてし まう家族がある。共に支えあうことを理解し実践 していただくよう説明していきたい。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関 係が築いていけるように支援している	出来る限りの来訪・外出・外泊を勧め、相互に 情報交換しながら、今までどおり本人と家族が 良い関係を築いていけるように支援している。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の来訪を推奨している。また、ホーム 便りを送付したり、イベントにお誘いし、家族やな じみの方との関係が途切れないよう支援してい る。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	本人の意思を尊重しているが、昼間は出来るだ けリビングで過ごしてもらっている。誕生会や体 動レク、ドライブ、散歩などの声かけをし、利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めて いる。		認知症や失語症で意志疎通の困難な方や、他 の利用者の状況を理解しがたい方などには、職 員が間に入って、孤立しないように努めている。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大 切にしている	サービス利用が終了しても、家族が困った時 には連絡をくださるよう案内したり、退居後も施設 等に面会に伺い、今まで培ってきた関係を大切 にしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と共に行動し会話をする中で、一人ひとりの生活習慣やこだわりを把握し、希望や意向に沿った生活を送れるように努めている。意思表示が難しくコミュニケーションが取りにくい方にも、より多く関わることで、把握し実現できるよう心がけている。	○	利用者本位のケアマネジメントを実践するために「センター方式」を充実させ、活用していきたい。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取りを行い、利用者一人ひとりの生活歴などの把握に努め、センター方式に記入することで、職員同士が共有できるようにしている。	○	生活歴などを把握し、「センター方式」を充実させ、一人ひとりの利用者にもふさわしいケアを行なえるよう努めたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の行動・言動・表情などを注意深く観察し、訴えや意向を受け止め、暮らしの満足度や心身の状態等を把握するように努めている。		日々の過ごし方や心身状態について、介護記録や健康チェック表で判断するだけでなく、いつもと違う様子に気づく感性を養うように努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症のレベルによっては難しいが、介護計画に利用者の思いが反映されるように出来るだけ本人と話し合いをしている。また、家族の意向も伺い、介護計画を作成している。	○	できる限り、利用者本人と一緒に生活の目標を考え、本人や家族等の意向を盛り込み、地域で個性を活かした生活を送ることが出来るような介護計画を作成していく。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全利用者のケアカンファを月に一回は実施し、利用者やご家族の状況等に変化や要望があった場合には、速やかに介護計画の修正や追加など見直しを行ない、現状に即した計画を作成している。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録から利用者個々の生活を把握できるように、会話の内容等についても記録し、介護計画の見直しや介護の実践に活かせるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	心身状態が重度化した場合には、普段より協力医療機関等との連携を強化して対応できる体制を布いている。また、訪問マッサージやスポーツインストラクターによる‘体動レク’を行なうなど、個々の要望に応じて柔軟に対応している。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	中学生の職場体験の受け入れやボランティアの方に演奏会や園芸等の協力を頂いている。また、地元駐在所警察官の方には巡回だけでなく、非番の日にはホーム行事に参加して利用者を知って頂いている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	日常より他事業所と相談や情報交換など交流をしている。また、訪問マッサージや訪問歯科を利用したり、福祉用具が必要になった場合は利用者や家族・業者と相談し、利用するための支援を行なっている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター職員の参加する運営推進会議を開き、職員や家族にアドバイスをいただくなど、多岐にわたって協働できるよう話し合っている。会議以外でも相談し、支援していただいている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医と協力医療機関のどちらでも希望する医療機関を受診できる。協力医以外の受診は家族が行なっているが、その際に利用者の状態を説明できるよう口頭で伝えたり、資料を用意して伝えている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師等とは、必要に応じて相談をし、治療を受けられるように支援している。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常の健康管理や疾病を患った場合には、主に協力医療機関の医師・看護師あるいは保険調剤薬局の薬剤師等にいつでも相談できる体制を布いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時には、ご本人が安心できるよう職員が面会に伺ったり、管理者等が担当医師・看護師・理学療法士等に入院以前の状態を伝えたり、早期退院に向けての情報交換を行なっている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況に応じてタイミングを見計らって、ご家族やかかりつけ医等と話し合うようにしている。また、ケアカンファでも討議し、ご本人・ご家族とスタッフが相互に納得した上で、全員が方針を共有している。	○	出来るだけ早い段階から、重度化した場合や終末期の対応について、ご本人やご家族と話し合っていきたいと考えているが、現実味を帯びていないせいか、漠然とした思いしか伝わってこない。一緒に支援できるよう、意向を把握し取り組んでいきたい。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	行動・心理徴候(BPSD)が顕著な認知症の重度化や終末期が近づいた場合、ご家族に細かく連絡し、重度化に伴い、事業所で対応できないことや協力強化のお願いなどを家族と話し合ったり、かかりつけ医と相談して対応している。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを最小限に食い止めるために、ご家族を始め、医療や福祉関係者と話し合っ、必要に応じた情報提供を行なっている。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の利用者の誇りを損なわないような言葉かけを場所とタイミングに留意して行い、個性とプライバシーを尊重し、介助している。個人情報の取り扱いの重要性について、研修や会議で確認しあっている。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に利用者の希望の表出と自己決定を大切にしており、着たい服や見たい番組、散歩に行きたいなど、日常の暮らしの中で選択の場面作りを行い、それらを促すような支援を行なっている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、利用者の希望にそい、その人のペースを大切に、その人らしい生活が送れるよう支援している。散歩のコースを一緒に考えて、歩きに行ったりもする。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみに気をつけ、利用者ご本人と相談しながら、一緒に服を選んだり、お化粧品をしてさしあげることもある。理美容院では、好みの髪型を伝える等の支援をしている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出し、調理、盛り付け、片付けなど、利用者のできる範囲で食事作りに関わっていただいている。また、食事のときは必ず一緒にスタッフが食卓を囲み、楽しくなごやかに食事をしている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙習慣のあった利用者も、自然と禁煙され、健康的な生活を送られている。今は、習慣的に飲酒される方はいないが、おかずや外食・行事にあわせ、飲酒も楽しんでいただいている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	認知症が進み、トイレの場所や排泄の方法がわからないものの、誘導は強く拒否される方もあるが、排泄パターンを調べ、それに合わせた声かけを行なうことで、清潔を保つよう支援している。		便秘がちな方には、体を動かすように体操や散歩、手伝いをさせていただいたり、豆乳やヨーグルトなどを食べていただくなど食事に工夫することで、これからも薬に頼らない工夫をしていく。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は概ね決まっているが、早い時間に入りたい方や夕食後が良い方などの希望に沿うようにしている。また、入浴剤を使ったり、ゆず湯や菖蒲湯などでも入浴を楽しめるよう工夫・支援している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、散歩に行ったり、体を動かすことで気持ちよく休息・安眠できるように工夫・支援している。疲れた表情をしている時には、休息・昼寝を休していただくよう声をかけている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の利用者の得意なことを、出来る力に応じて発揮していただけるよう支援したり、今までの社会的な立場を活かした役割を持っていただけるよう、働きかけている。	○	認知症が進み、出来ることが少なくなっている利用者にも、役割や楽しみごとなどを持っていただけるように支援していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度は所持している利用者もいるが、基本的にはホームでお預りをして管理している。買い物や散髪に行きたいなど希望があれば応じ、お金を使えるよう支援している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好天の日には、散歩や日光浴など出来るだけ戸外に出るよう支援している。花見やウォーキング会、ドライブ、イベントなどに参加し、気分転換を図れるようご家族にも協力していただき、外出支援をしている。	○	ご家族にも、来訪時に外出をしていただくよう勧めているが、一部のご家族にとどまっている。もっと協力を呼びかけていきたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	食の細い利用者からにぎり寿司が食べたいという声があがり、全利用者のご家族・職員で回転寿司を食べに行った。利用者の希望を叶えるよう、家族と相談しながら、支援している。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があったときには、見守りのもと、お話しいただいている。状況によっては、職員が前もって先方と打ち合わせをしておき、混乱などないように支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	「利用者が自宅であればこうしたであろう」を考えて、来訪者には茶・菓子を提供し、おもてなしの心で心地良く過ごしていただき、また気軽にお越しただけのように心がけている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会などで身体拘束について学び、理解しており、スピーチロックを含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯の目的で玄関等の施錠をしているが、利用者の希望でいつでも外出できるように対応している。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、プライバシーを尊重した言葉かけ(ノック、挨拶等)で対応し、常に利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等の口にすると危ない物は、施錠できるクローゼットに保管したり、ひげそりなど注意の必要な物は事務所で保管している。居室においては、個々の状態に即した対応をしている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを作成し、対応している。ケアカンファやひやりはつを通して、利用者個々の状態に応じた対策を話し合い、事故防止に取り組んでいる。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急の際に慌てず対応できるように、緊急連絡手順を作成している。現状では、応急手当の訓練は行っていない。	○	協力医による応急手当の研修を行ない、全職員が対応できるようにする。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な消防・避難訓練には、利用者だけでなく、地域の方々の参加を呼びかけている。災害時には利用者の保護等を依頼している。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	医療機関ではないので対応しきれない場合、また、どうしても防ぎきれない事案等もあり得ることを説明した上で、プライバシーを尊重した自宅での生活に近い自然な生活を送れるよう話し合っている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを毎日行い、顔色や食欲等に変化があった場合には職員間で情報を共有し、ご家族にも連絡を取り、速やかに協力医療機関等を受診していただいている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないよう個人別与薬票を作り、処方された薬の仕分けから与薬までに3度のチェック体制を布いている。新しい処方薬のときは、体調変化に注意している。		受診報告書で、新しい処方薬の情報を職員間で共有できるようにしている。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状況を把握し、バランスの良い食事と運動や水分摂取でスムーズな排便となるよう支援している。特に便秘がちな方には、薬だけに頼らず、豆乳やヨーグルト等の食べ物で便秘の解消に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後や起床、就寝時などの日常の口腔ケアや義歯洗浄の声かけを行い、訪問歯科の先生と相談しながら、残存歯を大切にするような支援をしている。	○	認知症が進み、ご自分で十分な歯磨きができないが、介助されることを強く拒む方の口腔ケアも支援していきたい。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や飲水量・血液検査・体重測定等で栄養状態を把握し、食が進まない場合は、お粥や卵豆腐などを、水分摂取量が少ない方には野菜ジュースやヤクルトなど選べるようにしている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成しており、それに基づき、殺菌消毒を行なっている。日頃から手洗いうがいを徹底し、感染症の予防に努めている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	専属の管理栄養士の指導で、調理器具・食器・ふきん・冷蔵庫などの消毒・殺菌に関する衛生管理マニュアルとチェックリストを作成して、食中毒の予防に努めている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節の花を植え、親しみやすい一般家庭と同じように工夫している。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭で過ごしているようなのんびりとした感じを大切に、家庭的な家具を使い、不快な音やにおいの発生に気をつけ、自然な照明のもとで居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも広々とした和室やリビングがあり、コタツやマッサージチェアも備えてあり、自由に使えるよう工夫をしている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にベッドは備え付けているが、家具や装飾品はこれまで使い慣れたものを持って来ていただいている。また、ご家族の写真を飾るなど、居心地よく過ごせる工夫をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や湿度、エアコンによる温度調節について、全職員が気をつけ、小まめに調整している。匂いについても排水管の洗浄などを行い、快適に過ごせるよう配慮している。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室・浴槽には手摺や滑り止めを設置し、家具などは事故につながらないように注意・工夫をしている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の入口には表札や暖簾・絵などで、トイレには大きな文字で表示し、トイレの電気のスイッチにもシールを貼り、利用者が迷ったり混乱することのないように工夫している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先には季節の花を植え、菜園では野菜を栽培し、一緒に育て楽しんでいる。また、餅つきを玄関横の駐車場で行なっている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない